

2018年度
関西学院大学ロースクール
B日程

一般入試（法学未修者）

特別入試（法学未修者）

論 文 問 題

《10:00～12:00》

○開始の指示があるまで内容を見てはいけません。

【論文問題】

問題文の（A）（B）（C）は、児玉聡著『功利主義入門—はじめての倫理学』（筑摩書房、2012年）からの抜粋である。（A）は功利主義という考え方の解説、（B）は功利主義に対する批判、（C）は批判を踏まえて修正された現代の功利主義についての説明である。これらをよく読んで、以下の設問に答えなさい。

〔設問1〕

問題文の（A）に示されている古典的な功利主義の考え方によれば、冒頭の4つのケースはそれぞれどのように考えることになるか。合計200字程度で、簡潔に説明しなさい。なお、4つのケースは、「トロリーのケース1は」「トロリーのケース2は」「約束のケースは」「ローリングのケースは」という書き方で始めること。

〔設問2〕

問題文の（B）は、功利主義に対するどのような批判を示唆していると言えるか。100字程度でポイントをまとめなさい。

〔設問3〕

問題文の（C）で示されている修正された功利主義の考え方に沿って、問題文の（B）の冒頭で問われているケースに対する模範解答を導くとすれば、どのような論理になるか、説明を試みなさい。さらに、その説明がうまく成功していると言えるかどうかを、道徳的規則と功利主義との関係をどのようにとらえるのかという視点を交えて、論評しなさい。（合計600字程度）

問題文

(A)

功利主義について説明する前に、いくつか問題を出してみよう。以下のケースについて、あなたならどのような判断をするだろうか。

トロリーのケース1：トロリー(路面電車)が暴走している。もしあなたが何もしなければ、線路に縛り付けられた五名の人々はひき殺される。もしあなたがスイッチを切り替えて、トロリーを別の線路に引き入れれば、五人は助かる。ただし、別の線路に縛り付けられている一人がひき殺されることになる。あなたはスイッチを切り替えるべきだろうか。

トロリーのケース2：先と同様、トロリーが暴走している。もしあなたが何もしなければ、線路に縛り付けられた五名の人々はひき殺される。あなたは歩道橋の上におり、たまたまそばには見知らぬ大きな男性がいる。この男性を橋から突き落とせば、男性は死ぬが、その体がブレーキとなって、トロリーは五人の手前で止まって五人は助かる。あなたは男性を突き落とすべきだろうか。

無人島での友人との約束のケース：あなたと友人が遭難して無人島にたどり着いた。友人があなたに自分の全財産を競馬クラブに寄付してほしいと言い残して死んだ。あなたはそうすると約束した。さいわい、その後まもなくしてあなたは救助された。あなたは友人との約束を果たそうと思ったが、よくよく考えると、競馬クラブよりも病院に寄付した方がより多くの善を生み出せるように思われる。あなたと友人の約束については他に誰も知らない。あなたはどうすべきだろうか。

J・K・ローリングのケース：火事の建物から一人しか助け出せない場合に、あなたの父であるウェイターか、『ハリー・ポッター』シリーズを構想中のJ・K・ローリングのいずれかしか助けられない場合に、あなたはどうすべきか。

これから詳しく説明する功利主義は、こうした問いに対して答えを与えようとする倫理理論の一つだ。功利主義はジェレミー・ベンタム(一七四八—一八三二)が最初に定式化した倫理思想である。彼は政治においても道徳においても、何をなすべきかを考えるさいに指針となるのは、「功利性の原理」をにおいて他にないと主張した。彼の考え

を一言で言えば、「最大多数の最大幸福」を指針として行為せよ、というものだ。しかしこれだけでは具体的にどう考えたらよいのかわからないので、もう少し詳しく説明してみよう。

ここでベントムの考え方を説明するためにJ美というキャラクターに登場してもらおう。彼女は倫理的に生きるにはどうしたらよいかと悩んでいたおりに、たまたま図書館で見つけたベントムの主著『道徳および立法の諸原理序説』（以下『序説』）を借りてきて読むことにした。『序説』の第一章の冒頭にあるのは、「自然は人間を、苦痛と快楽という二人の王の支配の下に置いた」という有名な文章だ。ベントムは、われわれ人間がなすべきことと、現実にすることは、すべて快と苦という「二人の王」によって決められると言う。

自然は人間を、苦痛と快楽という二人の王の支配の下に置いた。彼ら苦痛と快楽だけが、われわれのすべきことを指示し、かつわれわれのすることを決定するのだ。その玉座には、一方には正・不正の基準が結わえられ、もう一方には、原因と結果の鎖が結わえられている。彼らは、われわれのすること、言うこと、考えること全てにおいて、われわれを支配している。われわれがこの服従から逃れようといくらあがいたところで、結局それは、われわれが彼らに服従していることを証明し、確かめるのに役立つに過ぎないだろう。

J美もそう思う。自分も友人も、楽しいと思ったことをやり、苦しいと思ったことをなるべく避けて生きている。もちろんときに受験勉強など、つらいことを我慢してやることもある。しかし、勉強を我慢してやるのは、それ自体は苦痛でも、試験でよい成績を取ると先生に誉められたり、親から特別にお小遣いを貰えたりするからだ。また、麻薬に手を出さないのも、しばらくは気持ちよくても、依存症になったりトラブルに巻き込まれたりして人生を棒に振るのが嫌だからだ。結局、快楽を求め、苦痛を避けているのだ。実際に人々がそうやって行動するのであれば、何をなすべきかを考えるさいにも、快苦を考慮に入れるのが当然だろう。

では、わたしは何を行為の指針として生きるべきか。J美はそう思って『序説』を読み進めた。すると、「功利性の原理」という「正・不正の基準」が出てきた。功利性の原理（功利主義）とは何か。人がなすべきこと、正しい行為とは社会全体の幸福を増やす行為のことであり、反対になすべきでない、不正な行為とは、社会全体の幸福を減らす行為のことだと書いてある。そして幸福とは快楽に他ならず、不幸とは快楽がない状態か、苦痛のことだとある。

これまたその通りだとJ美は思う。私たちは社会の中で生きているのだから、自分

のことだけでなく、同じ社会に生きている人たちのことも考えないといけない。幸せな人もいれば、そうでない人もいる。道徳も政治も、その目指すところは人々の幸福の増大であり、不幸の削減であるべきだ。少し前にいた総理大臣も「最小不幸社会」を唱えていた。倫理的に生きるとは、自分の力のあたる限りで、人々を幸福にすることだろう。

(中略)

『序説』をさらに読むと、快苦の計り方という話が出てきた。ベンタムの考えでは、何をしたらよいかを考えるにあたっては、快苦の量をきちんと計算しないといけない。快苦には、まずその強弱や長短がある。短くても強烈な快樂もあれば、弱くても長く続く苦痛もある。また、今すぐ得られる快苦か、ずっと先に得られる快苦か、ということもある。とくに将来の快苦については、どのぐらい確実に得られるものかも問題になる。さらに、快が後でさらなる快をともなう種類のものか、あるいは後で苦痛をともなう種類のものかという考慮や、ある人が快をもたらす行為をした場合に他の人に快あるいは苦をもたらす傾向があるかどうかとも考慮に入れる必要があるという。

(中略)

また、ベンタムは別のところで、「各人を一人として数え、誰もそれ以上には数えない」と言っている。これも計算の際には大事な点だとJ美は思う。計算するときは自分や自分の好きな人を特別扱いしたり、他の誰かを無視したりせずに、平等に考慮に入れるのは、倫理の基本だろう。

(B)

ジョニー・デップとウィノナ・ライダー主演の『シザーハンズ』というファンタジー映画をご存じだろうか。ジョニー・デップが演じるエドワード青年はフランケンシュタイン博士が作ったような人造人間で、タイトルにあるように、両腕にはふつうの手ではなく、大きなハサミ(シザー)がいくつも付いている。彼は自分を造った「父親」を不慮の事故で失ったのち、さびれた屋敷で孤独に暮らしていた。一方、ウィノナ・ライダーが演じるキムは典型的なアメリカの中流家庭で育った白人の高校生だ。

ある日、化粧品の訪問販売員をしているキムの母親が屋敷を訪れ、エドワードを発見する。彼女は身よりのないエドワードを不憫に思い、自分の家に引き取って一緒に暮らすことにした。しかし、社会生活を営んだことのないエドワードは、子どものように純粋な心を持つ半面、何をしてよくて何をしてはいけないのか、つまり倫理のルールがわかっていない。そのため、知らず知らずのうちに犯罪行為の手助けをするなど、さまざまなトラブルに巻き込まれてしまう。エドワードの今後を心配したキムの父親は、一家での夕食中にエドワードに次のように言う。

よし、ちょっと倫理の勉強だ。君が道を歩いているとする。するとスーツケースいっぱい詰まった札束が落ちているのに気づく。君は一人きりで、あたりには誰もいない。さて、君はどうすべきだろう？ A. お金を自分のものにする。B. そのお金で友人や大切な人にプレゼントを買う。C. 貧しい人にあげる。D. 警察に届ける。

読者もお察しの通り、模範的な解答は「D. 警察に届ける」である。自分なら実際にはAを選ぶかも……と思った人も少なからずいるかもしれない。正直でよろしい。だがこれは、「自分だったら実際にどうするか」という質問ではなく、「倫理的に考えてどうすべきか」という質問であることに注意してほしい。

さて、読者と違って倫理のルールを学んだことのないエドワードは、どう判断したか。彼は、しばらく悩んだ末、「B. そのお金で友人や大切な人にプレゼントを買う」を選んでしまう。純粋な心を持つ彼は、人一倍、友人や家族思いなのだ。その答えを聞いたキムの母親が困った顔をして、「たしかにそれが正しいように見えるけれど、実はそうじゃないのよ」と同情気味に言う。エドワードのことを憎からず思っているキムも、「それはよりステキなことじゃないかしら。わたしだったらそう思うわ」とエドワードを積極的に弁護しようとする。

しかし、父親はキムの意見を批判して、ぴしゃりと言う。「いま問題にしてい

るのはステキかどうかじゃなくて、やっていいことと、いけないことなんだ！」。つまり、父親に言わせれば、今は倫理の話をしているのであり、ステキだとかカッコいいだとかいうのは、まったく別の問題なのだ。

さて、ここまでは半分前置きである。ここで考えたいのは、選択肢「C. 貧しい人にあげる」だ。エドワードが（…略…）功利主義を学んでいたら、この質問に対してCを選んでいたかもしれない。

たとえば現在、ソマリアでは飢饉^{ききん}で数百万人の人が飢えに苦しんでいる。食べ物や飲み物が不足しているだけでなく、難民キャンプでは赤痢のような感染症も蔓延^{まんえん}し、子どもたちが次々に死んでいる。スーツケース一杯のお金を、ユニセフやUNHCRのような国連機関や、国境なき医師団やセーブ・ザ・チルドレンのような国際NGOに寄付すれば、多くの人の命を救える可能性がある。

なるほど、そのお金を落とした人は、それほどの大金が戻ってこなければおそらくかなり不幸になるだろう。しかし、おそらくそれによって死ぬわけではないし、かりに絶望の末に死んだとしても、一人の命であり、その代わりにソマリアで大勢の人々の命が助かることになる。誰も見ていないのであれば、落とし物を届けなかったことで罪に問われることもない。功利主義者なら、迷わずCを選ぶべきではないだろうか。J・J・C・スマートというオーストラリアの功利主義者なら、まさにこの選択肢を選んだだろう。（…略…）次の例は彼が挙げているものだ。

無人島で交わされた友人との約束：わたしと友人が遭難して無人島にたどり着いた。友人は、わたしに自分の全財産を競馬クラブに寄付してほしいと言い残して死んでしまった。わたしはそうすると約束した。その後わたしは運良く助けられた。だが、友人との約束を守って競馬クラブに寄付するよりも、病院に寄付した方がより多くの善が生み出せるのではないかと考え、どうすべきか悩んでいる。

あなたならどう考えるだろうか。おそらくキムの父親なら、たとえ友人との約束のことを誰も知らないとしても、約束を守って競馬クラブに寄付すべきだと言うだろう。

だが、功利主義者のスマートはこう考える。「わたしと友人が交わした約束について他の人は誰も知らないし、わたし自身も良心の呵責^{かしやく}を少しばかり覚えるかもしれないが、それでも全体の利益を考える功利主義者としては、約束を破って病院に寄付すべきだ」。

このように、少なくともスマートのような一部の功利主義者は、倫理的に考えた場合、模範的^{モーファン}回答である「D. 警察に届ける」を選ぶのではなく、別の答え（この場合はC）を選ぶ可能性が高い。（…略…）もっともらしく見えたかもしれない功利主義

は、実はこのように常識とは異なる結論を出す可能性があるのだ。

ここで視点を変えてエドワードが選んだ「B. そのお金で友人や大切な人にプレゼントを買う」という選択肢について、少し考えてみよう。たしかに、拾ったお金で友人や大切な人にプレゼントを買うのは倫理的ではないかもしれない。しかし、家族や友人を大切にすること自体は、一般に倫理的なことだと考えられている。赤の他人よりもまず自分の家族や友人を優先的に助けるのは当たり前、と考える読者は多いだろう。

たとえば、大学の講義で、トロリー問題についてどう思うかと学生に聞くと、線路に縛られている人の中に家族や友人などがいるかどうかで答えが異なります」と答える学生がときどきいる。そこでトロリー問題を修正して次のように問うてみることができる。「線路に一人の見知らぬ人が縛り付けられていて、もう一方の線路にはあなたの家族の一人が縛り付けられている。どちらか一人しか助けられない状況において、あなたはどちらを助けるべきだろうか」と。こう尋ねると、ほとんどの人は、自分の家族を助けるのが当たり前、と答えるのではないだろうか。

(C)

自分の家族への偏った愛は、不偏性を本質とする正義にとって邪魔になるから、そのような愛情は不要だ、とゴドウィンは元々考えていた。しかし、(…略…)彼はそれでは不十分だと考えるようになった。家族に対してほとんど無関心な人は、概して他の人々の幸福にも関心を抱かないものだ。むしろ家族関係の中で愛情を育む人の方が、家族を含めた身近な人々をより幸福にできて功利主義的に見ても望ましい。そればかりでなく、家族への愛情によって他人の幸福に対する感受性が高められると、他の人々の幸福にも関心を持つ立派な功利主義者になれる可能性があると言うのだ。

(中略)

とはいえ、ゴドウィンはこのような自分の家族や友人、同国人に対する「偏愛」を無条件に認めるわけではない。身近な人々を赤の他人よりも大事にすることは、度が過ぎると単なる「身内びいき」になる。自分の子どもがかわいいあまり、国内や国外で貧困にあえいでいる子どもに無関心になったり、援助の手を差し伸べなかったりするのは功利主義者としては失格だ。同国人が災害で苦しんでいるのは助けるが、外国で同じような災害が起きても無関心でいたり、それどころかいい気味だと喜んだりすることも、正義に反する。自分の家族や友人などに対する愛情も適度でなければならない。どのぐらいが適度であるかは、公平性の観点から評価する必要があるだろう。

このように、公平性の観点が最も重要だという考えは変化していないという意味で、ゴドウィンは依然として功利主義者であった。そしてこの修正がなされた後のゴドウィンの立場は、現代の功利主義者の多くが取っている立場とほぼ同じものと考えられる。現代の功利主義者の多くも、自分の家族や友人に対する義務や、約束を守る義務や嘘をつかない義務などが功利主義的に考えて重要であることを認めている。

(中略)

現代の功利主義は、二つの点で洗練されている。

一つは、功利主義的に行為するために、ひたすら最大多数の最大幸福のことばかり考えて行為する「功利主義マシン」になる必要はないとする点だ。現代の功利主義者の多くは、家族への義務や、さまざまな道徳的規則を考慮しながら行為していれば、人々は結果的に功利主義的に行為することになる、と考えている。

かつてベンタムの弟子の一人のジョン・オースティン（一七九〇—一八五九）という功利主義者は、この考えを次のように表現した。「健全で正統な功利主義者は、《彼氏が彼女にキスするさいには公共の福祉について考えていなければならない》などと主張したことも考えたこともない」。

功利主義者は年がら年じゅう、功利原理を用いて意思決定する必要はないとするこの考え方は、現在では「間接功利主義」と呼ばれる。それに対して、ゴドウィンは少なくとも最初のうちは、立派な功利主義者は最大多数の最大幸福について始終考えていなければならないと考えていたので「直接功利主義」の立場を取っていたと言える。初期のゴドウィンに言わせれば、恋人同士がキスする場合も、社会の幸福を考えてそうしなければならないのだ。読者も試しに二、三日やってみるとよいが、この立場を貫いて生きるのは相当大変である。

もう一つは、約束を守るとか嘘をつかないという義務の重要性は認めながらも、そうした義務を守ることが行き過ぎることがないように、功利主義の観点からチェックする必要がある、という立場を取っている点だ。このような、さまざまな道徳的規則や義務を守ることが社会全体の幸福に貢献するかどうかを評価し、貢献すると認められる規則や義務を二次的な規則として採用するという立場を、「規則功利主義」と呼ぶ。これらの規則や義務を「二次的」と呼ぶのは、功利原理という「第一原理」から派生するものと見なされるためである。これに対して、初期のゴドウィンや上で見たスマートは、道徳的規則や義務をあまり重視せず、あくまで個々の行為に対して功利主義的な評価を下さなければならないと考えていた。この立場は「行為功利主義」と呼ばれる。

※注）ゴドウィンはベンタムと同時代の功利主義者の1人

児玉聡『功利主義入門—はじめての倫理学』（筑摩書房、2012年）より抜粋。なお、作題の関係上、本文の一部を省略した。

2018年度未修入試B日程論文：出題趣旨と講評

〔出題趣旨〕

本問は、児玉聡著「功利主義入門―初めての倫理学」（ちくま新書、2012年）から、功利主義という考え方の解説をしている問題文（A）、功利主義に対する批判を示している問題文（B）、批判を踏まえて修正された現代の功利主義について説明している問題文（C）という3か所を抜粋して取り出し、筋道をつけて読解しやすいように題材を提供しています。読み進んでいくと、倫理的なことが問題になるケースをどのように考えたらよいのだろうか？という疑問が自然と湧いてくるはずです。文章としては平易なものを素材としています。

設問は、問題文に示されている論理を素直に正しくとらえて、それを的確に構成できるかどうか、そして、一方の原理を具体例にあてはめるとどうなるのかを正しく把握したうえで、その原理が修正されるとあてはめがどう修正されるのかを把握したうえで、原理と原理の対立や調和をどう図る論理を組み立てるのか、といった、法律学を勉強していくうえで必要な思考作業ができるかどうかの資質・能力を計りたいというのが出題趣旨です。

問題1と問題2は比較的易しい問題で、問題1は、原理の具体例へのあてはめが的確にできて、理由が簡潔に説明できるかどうか、問題2は短い字数の範囲内で簡潔にポイントをまとめられるかに着目しました。問題3は、自分で論理を組み立ててみたうえで、問題文が示している考え方を正しく捉えて検証するという、やや難しい作業を要求していますので、その枠組みの中で、それなりの考えをまとめることができるかが問われます。

問題1

（解答例）

トロリーのケース1は、トロリーがそのまま走れば5人が死亡し、1人が死亡する場合の5倍の不幸が生まれるから、それを防ぐためにスイッチを切り替える。トロリーのケース2は、同様の理由により男性を突き落とす。約束のケースは、友人との約束を守るよりも慈善団体に寄付する方がより多くの人の幸福をもたらすから、寄付を選択する。ローリングのケースは、自分の父よりもローリングの方が社会全体の利益と幸福に寄与するので、ローリングを救う。（約200字）

（解説・講評）

古典的な功利主義は、道徳や政治の指針を立てる際に、人間の快樂・幸福や苦痛・不幸を量的に計って比較することによって「最大多数の最大幸福」をもたらす行為を選び出

していくという思想であることや、快苦の量を計る際に、各人を一人として数え、誰かを特別扱いにしないという特徴が、問題文（A）に示されています。これを4つのケースにあてはめると、上記解答例のようになるはずです。

結論がそのようになっているかどうか、理由の説明として、社会全体の利益と幸福への寄与の大小を比較するという視点で、かつ幸福と不幸の比較をする際に各人を1人と数えて量的比較をするという観点で、問題文（A）の論理的帰結に従って述べられているかどうか問われています。

答えは、概ねできていましたが、トロリーのケース1、2について、単純に人数のことを挙げるだけで、不幸の大小ということをきっちり書いていないものも散見されました。なお、トロリーのケース2を、ケース1と違って、わざわざ突き落とす行為はとるべきでないとしたものもありましたが、不幸の量の比較のみに依拠するという視点からは、ケース1と論理的に同じになるはずです。

問題2

（解答例）

功利主義は人間の快樂・幸福や苦痛・不幸を量的に計って比較することによって道徳や政治の指針にするが、それによって善悪・秩序・倫理性・家族愛のような重要な価値を軽視し、常識に反する結論を出しかねないという点を批判している。（約100字）

（解説・講評）

問題1の解説でも述べたように、古典的な功利主義は人間の快樂・幸福や苦痛・不幸を量的に計って比較することによって道徳や政治の指針にする、という考え方です。しかし、問題文（B）でも書かれているとおり、この考えを押し進めると、道に落ちているお金を警察に届けずに、そのお金で友人や大切な人にプレゼントを買うとか、貧しい人にあげる、というように、常識と異なる結論を出す可能性がある、ということが批判のポイントです。

しかし、これだけでは答えとしては不十分です。何故常識と異なるのか？ということが常識として観念されているのか？について、的確な指摘が欲しいところです。問題文（B）には、倫理ということが出てきますので、その点は不可欠でしょう。つまり、行為が人々にもたらす利益の大小をもっぱら視野の中心に置くだけでは、倫理性の欠如した行動でも許容されてしまう、ということです。

問題文では、倫理性ということをもう少し敷衍して、善悪・秩序・家族愛といったところも大切な価値として描かれているように思いますので、字数の限られた中で言葉を選び出すのは難しいですが、できればそのあたりの指摘も欲しいところです。

答えでは、そこまでの指摘をしたものは見当たらず、倫理を軽視する点で常識に反する

結論になる、というようなことが書かれていれば、及第点としました。しかし、常識に反する結論になってしまうという、批判の中心点に触れていない答えは、やはり低い評価とせざるを得ませんでした。

問題 3

(解説・講評)

この問題では、第一に、修正された功利主義の考え方に沿って、該当設例で警察に届け出ることを根拠づける模範解答を導くための説明を試みる、ということが求められています。この説明は、考えてみると、意外に難しいものです。問題 2 で批判されたように、古典的な功利主義からは、うまく説明できないからです。したがって、ここでは、功利主義が現代ではどのように修正されたのかを問題文 (C) からよく読み取って、説明に活用するということが必要となります。

この点については、2つのことが問題文 (C) には書かれています。1つは、例えば愛情に基づく行動が増えれば他人の幸福にも関心を持つ功利主義者が増えるというように、家族への愛情やさまざまな道徳的基礎を考慮しながら行為すれば結果的に功利主義につながるかと考えるという論理 (間接功利主義) です。もう1つは、道徳的規則や義務の重要性を認めながらも、規則や義務の行き過ぎをチェックするために、社会全体の幸福に貢献するかどうかを評価し、採用するという考え方 (規則功利主義) です。

このように、道徳的規則や義務と功利主義を、功利主義を指導原理としつつも両者は同じ方向を向いたものとして調和的にとらえることによって、道徳的規則や義務を否定せずに功利主義の枠組みに取り込む形で行動規範を説明しようとしているのが特徴です

(間接功利主義では、義務や道徳的規則に基づく行為が結果的に功利主義に結びつくことと捉え、規則功利主義では功利原理が第一原理であると捉えるわけです)。

このような捉え方に立つとすれば、該当設例においても、警察に届け出るという行動を義務付ければ、お金を落とした人の元にお金が戻る可能性が高くなり、持ち主がお金を有意義なことに使おうとする行動に結びつき、多くの人の幸福をもたらす可能性があるとか、警察に届け出るという行動を義務付ければ、拾ったお金を自分勝手な使い道に使うのではなくルールに従った処理をするという人間が育ち、結果的に多くの人の幸福をもたらすお金の使い方が増えるので社会全体の幸福に貢献する、というような説明をすることになるでしょう。

そのうえで、本問では、第二に、このような説明がうまく成功していると言えるかどうかを、道徳的規則と功利主義との関係をどのようにとらえるのかという視点を交えて論評することが求められています。

この点については、上述のように、道徳的規則や義務が功利主義の行動原理を制約するというように両者を対立的にとらえるのではなく、同じ方向をめざすものとして調和的に

説明しようとしていることについての論評が必要となってきます。論評の一つの方向としては、1つ1つの道徳的規則や義務は多くの人の幸福ということを必ずしも目的としているわけではなく、人類が歴史の中で確立してきた絶対の価値（人倫）を守るとか、手続的な公正や社会的秩序の維持自体を価値規範とする、といった別の原理に基づいて設定されているはずであって、そのことを直視するとすれば、上述のように無理に調和的な説明をするのは、こじ付けではないか、といった立場が考えられます。この立場からは、不合理で無意味なルールを倫理や道徳の名のもとに人々に強制させているような場合には、功利主義に照らしてそのルールに合理性があるのかを批判的に考え直すということの意義は認めるとしても、そうした作業をしたうえでも、なおそのルール自体に合理性があることが否定できないのであれば、それはそれでルール自体に必要性があることを端的に説明すればよいのであって、無理に功利主義の観点から統一的に説明する必要はない、ということになるでしょう。

他の方向としては、道徳的規則や義務の正当性を根拠づけるのは、倫理や秩序といった曖昧な概念ではなく、究極的には「最大多数の最大幸福」という功利主義の指導原理以外にはないはずであり、拾ったお金を警察に届け出るというのも、その指導原理に沿った説明は可能であって、上述の説明はこじ付けではない、というような立場になるでしょう。

このように考察を進めてくると、本問はなかなか答えを見出しにくい難問であるということが出来るでしょう。難問であることに迫る答案を書いてほしいところです。答案では、模範解答のそれなりの説明をするとともに、修正された功利主義としての間接功利主義や規則功利主義の視点を正しく捉えて論評しているものも見受けられましたが、こじ付け的な説明になっていないかどうかを、突っ込んで考察するまでには至らず、説明の表面だけを繰り返して、説明は成功している、といった記述で終わっているものが多かったように思います。修正された功利主義の内容をよく掴めていない答案は、概して模範解答の説明自体もきっちり書けていないものが多く、そうなるとその論評もおざなりとなって、全体の論旨が不明となってしまっている傾向にありました。問題文が何を言おうとしているのかを、その場で素直によく考えて咀嚼することが、このような問題を解くポイントと言えるでしょう。